

2016 年度奈良県立大学観光創造commons3年次生 編著

『現代観光の諸相』

第五章 奈良の観光

もくじ

1. 奈良の観光（坪田和真，橋本実果）……………P123

奈良の観光

坪田和真
橋本実果

1. はじめに

奈良県は古くに都が築かれ、現代においても歴史的に非常に価値の高い寺社や史跡が存在する。全国から観光地としてある程度の認知がなされており、毎年多くの小中高生が学校の遠足や修学旅行等で訪問している。古くから奈良には「大仏商法」という言葉がある。何もせずとも大仏目当て観光客がやってくると考え、積極的に集客につながる努力を行わない奈良商人の様を例えた言葉である。本稿ではこのような言葉が生まれた奈良という地では現在においてどんな観光形態をとっているのかまたどのような特徴があるのかを地域ごとに考察していき、その特徴から見えてくる問題点を明示していくこととする。

2. 奈良県における観光の現状と特徴

本項目では、奈良県の観光事業について、観光客数の推移や観光客の消費行動から見えてくる現状を整理し、奈良県の地域ごとの特徴をまとめる。

奈良県観光客動態調査(図 1)より、近年の奈良県全体における観光客数の変遷をたどると、観光客入込数のピークを記録した平成 22 年以降、一度大きく下がった観光客数は、徐々に回復の兆しを見せている。それぞれの年を詳しく見てみると、観光客入込数のピークを迎えた平成 22 年は平城遷都 1300 年祭のイベントが開催された年であり、その影響で前年度と比べて 27%の増加である 4,464 万人もの観光客数を記録している。翌年の平成 23 年平城遷都 1300 年祭の反動や東日本大震災の発生、同年 9 月に起きた紀伊半島大水害による奈良県南部への甚大な被害などの要因が重なり、観光客数は大幅に減少し、前年度と比べ 25%減少した 3,330 万人となっている。この観光客数は直近 10 年の中で最も低い値であり、前年度の平成 22 年が過去最高の値となっているため非常に大きな落差を生むこととなった。平成 24 年から平成 26 年にかけては、全国で訪日外国人が増加傾向にあり、奈良県では海外プロモーションを積極的に行ったため外国人観光客が増加し、平成 26 年の時点で 3,811 万人と順調に観光客数を伸ばしている。

観光入込客数と観光消費額の統計(表1)から分かる奈良県の観光の特徴がある。平成 26 年の統計を見てみると、観光入込客数 2,093 万人のうち、宿泊客が 200 万人、日帰り客が 1,893 万人と

日帰り客の割合が圧倒的に多くなっている。また、観光消費額の単価で見ると宿泊客が 25,966 円、日帰り客が 3,871 円となっており、日帰り観光客の割合が非常に多い奈良県において、観光消費額が圧倒的に高くなる宿泊観光客をいかに増やすかが重要な課題となっている。この内容については後に続く章で詳しく見ていくこととする。

さらに、奈良県を地域ごとに 4 つのエリアに分けその特徴を明らかにすることで、奈良県の観光の現状をより具体的なものにしていく。奈良県の地域をエリアごとに分類(図 2)すると、奈良市、生駒市、山添村を含む県北部、大和郡山市、香芝市、斑鳩町など 16 の市町村を含む県西部、天理市、橿原市、桜井市、明日香村など 8 つの市町村を含む県東部、五條市、吉野町、十津川村など 12 の市町村を含む県南部に分類することができる。

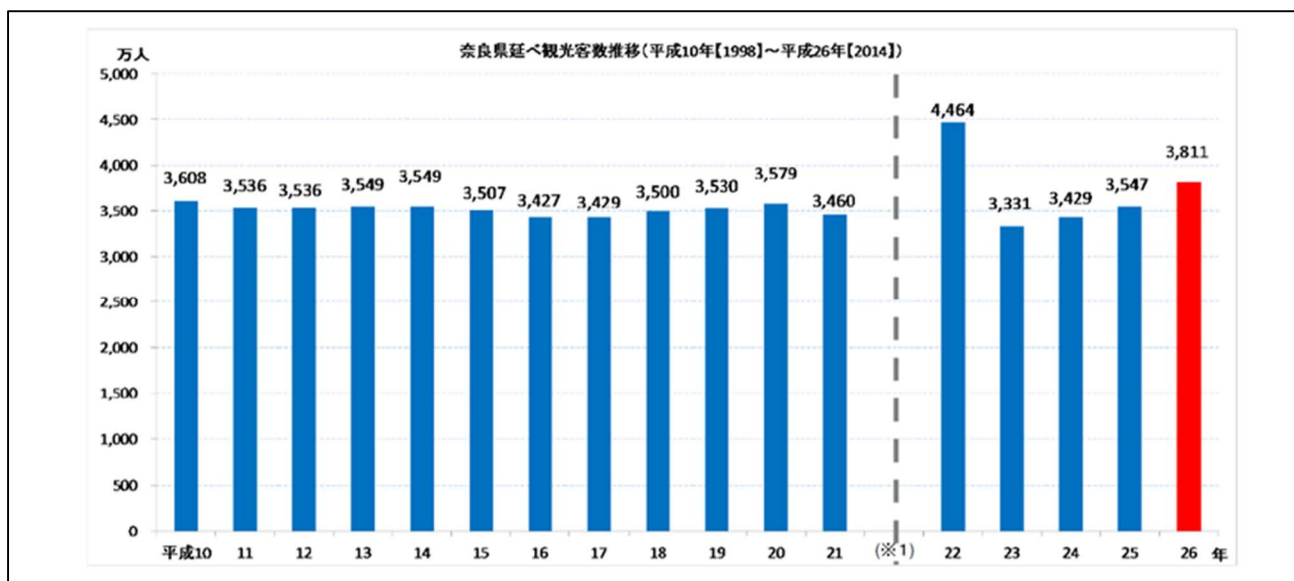


図1 奈良県延べ観光客数推移

出典: 奈良県公式ホームページ

表1 奈良県の観光入込客数と一人当たりの消費額

(1) 観光入込客数(実人数)				(2) 1人あたり観光消費額		
(単位: 千人回)				(単位: 円)		
	計	うち宿泊客	うち日帰り客	奈良県		
				宿泊客	日帰り客	
平成26年	20,936	2,000	18,936	25,966	3,871	
平成25年	19,848	2,182	17,666	26,577	4,009	
対前年比	5.5%	-8.3%	7.2%	-2.3%	-3.4%	

出典: 奈良県公式ホームページ

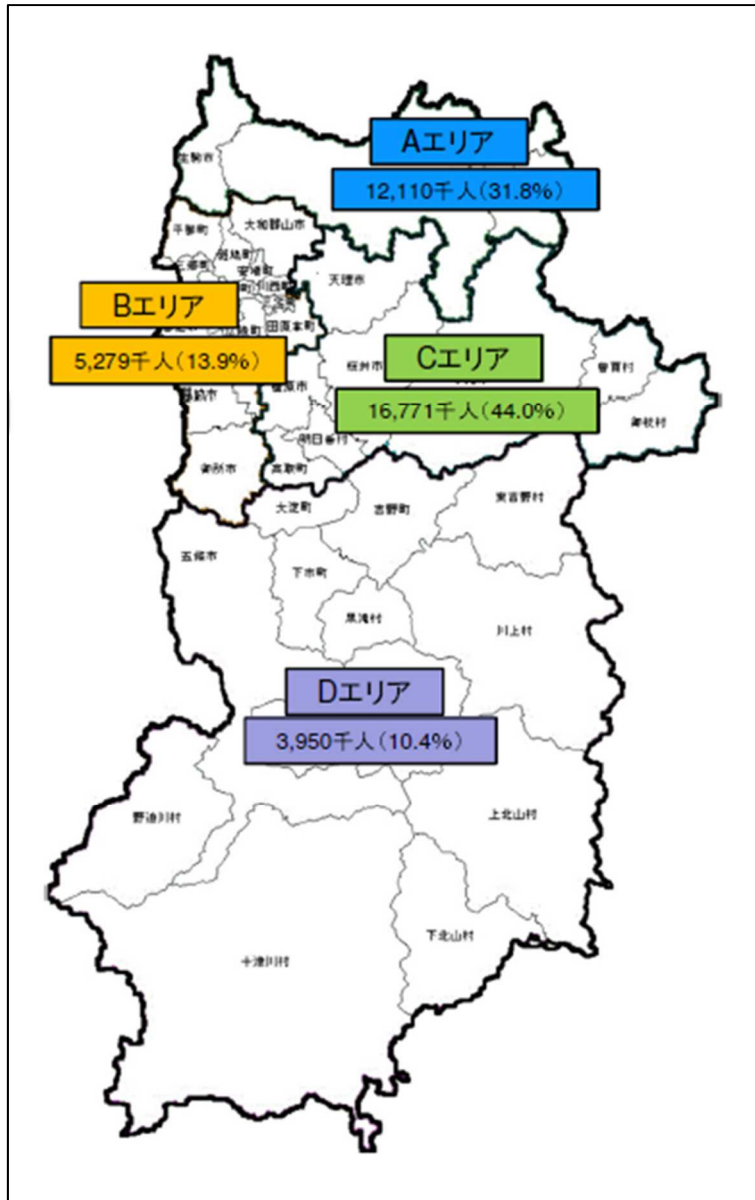


図3 奈良県の地域区分

出典：奈良県公式ホームページ

それぞれの特徴を挙げると、県北部は、外国人観光客が多く訪れるエリアである。そのため、近年では外国人向けのパンフレットなどを使った情報発信や観光整備などの海外プロモーション政策に力を入れている。このエリアでは、なら燈花会などのイベントが開催される8月に観光客数が最も多くなる。また、6月にはミュージックフェストなら、12月には奈良マラソンといった毎年恒例となっているイベントにより、本来は奈良県観光にとってのオフシーズンである月でも観光客を獲得する取り組みがなされていると言える。

県東部では、橿原神宮や阿部文殊院への初詣による1月の観光客数が圧倒的に多くなっている。また、明日香村は現在においても遺跡や集落、農地、丘陵、山地が一体となる独特の趣を有しており、四季を通じて多くの観光客が訪れている。

県南部は山間部に位置し、キャンプやハイキングなどのレジャーに訪れる観光客が多いため、ゴールデンウィークや夏にかけての天候不良や台風の影響を受けやすく、年によって観光客数の変動が起こりやすい。十津川温泉郷など人気の高い観光資源を有しているが、鉄道が通っておらず交通が不便であるという問題点もある。吉野山の千本桜など桜の名所があるため 4 月の観光客数が多いのも特徴である。

また、奈良県全体の観光の特徴として 2 月、7 月、12 月がオフシーズンとなっており、オンシーズンとオフシーズンの差が大きいということがあげられる。

3. 奈良県の宿泊観光

4.1 奈良県全体の宿泊観光

奈良県の観光の現状から考えられる深刻な問題点として、宿泊観光客の少なさを取り上げることとする。奈良県の宿泊観光客数の少なさを裏付けするデータとして、観光庁が実施している宿泊旅行統計調査によると、平成 26 年の観光入込客数 3,811 万人で全国 17 位となっているのに対し、宿泊客数は 227 万人で全国 47 位となっている。前章で述べた通り、日帰り観光客と宿泊観光客を比べると観光消費額に約 6 倍もの差が生じるため、観光客が多い割には経済効果に期待できないのが現状である。そのため、奈良県では宿泊者数の増加は、地域経済の振興と産業の活性化につながる重要な課題である。

奈良県で宿泊観光客が少ない要因として、まず観光客を迎え入れる環境の問題が挙げられる。奈良県には大規模なホテルが少なく、大規模なイベント・コンベンションや宿泊観光の需要に応えられていないのが現状である。また、観光庁のデータから宿泊施設の稼働率は全国的に見て平均的な値になっているのに対し、宿泊客数が少ないことから、大型のホテルのみならず宿泊施設の数も足りていないことが分かる。さらに、宿泊業者の中にはマストツーリズムの名残で修学旅行生等の団体客に偏重したサービスを行う業者も少なくない。昨今は個人旅行が主流になり、外国人観光客が増加するなど旅行形態が変化しているため、現代に合わせたサービス提供へ移行して行くことが求められている。

4.2 奈良県北部の宿泊観光

次に、奈良県北部に当てはまることであるが、交通の便が良すぎるということが言える。このことは観光において一見プラス要素であるように思われるが、北部は狭い範囲に歴史的観光資源が密集しているため周遊型の日帰り旅行形態となり観光客が長時間滞在しない原因となっている。このことから奈良県の観光は、短時間で有名な観光名所を回るような観光スタイルが主流とされてきた。昼に奈良県を観光し、夕方には奈良県を離れ京都や大阪の宿に宿泊するというように、関西旅行の一パーツとして捉えられることが多い。大阪・京都といった大都市との「近さ」が宿泊観光の低迷

の大きな要因となっていることは明白である。

また、奈良県での滞在時間が短いことにより宿泊につながらないことの他に、観光資源の魅力向上が課題として挙げられる。奈良県は歴史建造物等の文化的資源を豊富に有している。しかし、これらの観光名所は保存するという観点ではうまく考えられているが観光資源として積極的に活用してこなかった。それに加え、これらの資源を見て回った後に、立ち寄りたくなる飲食店や魅力的な土産物が量・質ともに不足している。これにより、観光客は多く訪れるが、滞在時間は伸びない。さらに寺社仏閣に金銭は落ちても周辺地域で消費行動を伴わないため地域経済の振興につながらない。また、奈良県の観光資源の傾向として、豊富な文化的資源を生かした「見る」タイプの観光行動が中心となっている。しかし、近年では「見る」観光よりも、「体験」型の観光へのニーズが高まっているため、現代に見合った魅力的な観光資源の創出が求められる。

4.3 宿泊観光客を増やすには

この問題を克服するために重点的に取り組むべき施策として、まずは資源の育成が挙げられる。奈良県は文化的資源による「見る」観光が主流であると述べたが、伝統文化、伝統行事、伝統工芸などの体験を伴う資源も数多く有している。しかし、これらを体験できる場所や機会が少ないのが現状であり、体験型観光のメニューの充実には重点的に取り組むべきである。

また、奈良県公式ホームページより、宿泊施設の整備事業に関連する奈良県が行っている取り組みをいくつか取り上げる。現在、奈良県の整備事業の目玉となっているのが「大宮通新ホテル・交流拠点事業」である。これは、奈良市の中央部に位置する県有地を利活用し、ホテルを核とした賑わいと交流の拠点整備をする計画である。外資系ホテルであるマリオット・インターナショナルの最高級ホテルブランドを誘致しようとしている。これに併設して 2,000 人収容できる会議場のほか観光施設や駐車場、バスターミナルが建設され、一体的な整備を行う構想となっている。また、県内の多様な宿泊施設の創出と既存宿泊施設の魅力向上を目的として、資金の融資や専門家の派遣、優遇税制などの宿泊施設への援助も行っている。さらに、奈良県では市街化調整区域における土地利用の規制緩和を図り、宿泊施設の新規立地や既存宿泊施設のリニューアルの促進を行っている。具体的な内容として、観光資源から 500m 以内の区域において、延床面積 500 m² 以下、高さ 10m 以下の規定に当てはまる小規模宿泊施設の建設が可能になり、同様に、観光資源の 500m～1km 以内の区域では延床面積 2,000 m² 以下、高さ 12m 以下の中規模宿泊施設の建設が可能となった。既存宿泊施設においては、既存敷地規模と合わせ 1,000 m² 以下となるような規定を基に、敷地増を伴う増設が認められた。

宿泊観光客を増やしていく上で、宿泊施設客室数の増設は急務であり、建設後の情報発信、現代に見合ったサービスの提供など取り組むべき点はまだまだ多い。また、南部地域と連携した農村民泊なども、体験型観光資源として宿泊観光客の獲得に期待できる取り組みである。次章では、奈良県南部にある十津川村の宿泊観光政策の事例を取り上げる。

4. 奈良県南部地域

4.1 十津川村の概要

奈良県を観光するというと奈良市内や明日香村周辺を想起することが多いであろう。観光雑誌やパンフレットを見ると一目瞭然である。奈良県の南部地域等は大々的に特集していることがあまり見受けられない。そのため奈良県全体や北部地域とは違ったり愚痴から宿泊観光の促進例として南部地域の事例を紹介していく。本章では南部地域の中でも吉野郡十津川村を取り上げていくとする。

十津川村という名を耳にしたことがあるであろうか。近年、宿泊観光地として民放の旅番組や経済ドキュメンタリー番組で取り上げられることが多くなってきている。十津川村は3,504人(十津川村役場, 2016)の人口を有し、面積672,4キロ平方メートル(奈良県の5分の1)と日本で一番広い村である。周辺は山林で囲まれており、村の一部は吉野熊野国立公園に属しており、豊かな自然環境にあると言える。有名な観光資源としては2章で例にあげた「十津川温泉郷」がある。この温泉は2004年全国に先駆がけ源泉掛け流し宣言を行ったことで知られており、環境省の国民保養温泉地に指定されている。この指定がなされているのは奈良県で唯一であることから泉質の良さが伺われる。他にも全長297メートル高さ54メートルの「谷瀬の吊り橋」は無料で渡ることができるため人気のスポットである。

村へは鉄道が通っていないため、公共交通機関によつてのアクセス方法は国道168号線に沿ったバスによるものしかない。一般的なのは奈良県近鉄大和八木駅から奈良交通バスで4時間、もしくは和歌山方面からのJR新宮駅で同じく奈良交通バスで2時間と二通りである。

この村が抱える問題で深刻なものとして少子高齢化あげられる(図4)。人口は1960年の15,588人をピークに減少の一途を辿っている。高齢化率は2016年で42.4%(2014年10月時点)と全国平均の26.0%、奈良県の平均の27.2%よりかなり上まっていることが見て取れる。この問題の打開策として五條市、野迫川村との市町村合併という案が出たことがある。しかし村民たちは市町村合併によらない村の生き残りを選択した。

村の存続のために行政と村民らによる観光業の開発が積極的に行われていくこととなる。村へのアクセスが難しいという負の要素を逆手に取り、宿泊観光地として独自の手法による路線を切り開いて行った。また観光地として情報発信の統一ブランドとして「心身再生の郷・十津川村」と打ち出した。紆余曲折が有りはしたものの、観光地として大きな成功を収めている。その観光形態については次の章でより詳しく見ていくとする。

4.2 十津川村の観光事例

十津川村における観光形態の特徴としてはグリーンツーリズムがあげられる。グリーンツーリズムとは従来の都市部での周遊型、通過型、物見遊山型のような観光スタイルではなく豊かな自然環境の下で、主に体験型の観光スタイルのことを指す。都市住民、農村住民、農村環境の3者にとつ

てより良い関係を気づいていくことを目標とする。ニューツーリズムの一つとして捉えられており、地域の自然資源を活かした都市と農山漁村の共生・共存の機会づくりやリピーターの創出につながると近年注目を浴びている。

このグリーンツーリズムの例として「なびきツアー」というものがある。このツアーは十津川村創生塾(地域づくりのリーダーを育成する講座)の講師として来ていた民間の人達の手によって生まれることとなった。内容としては世界遺産に登録されている十津川村周辺の古道と村の観光ブランドの中にある「心身再生」というキーワードに注目したウォーキングツアーである。他にあるウォーキングツアーと大きく違う点はワークショップを取り入れた人材育成型のツアーであるということである。なびきツアーの取り組みは 2007 年度に過疎地域自立活性化優良事例表彰で総務大臣賞を受賞している。

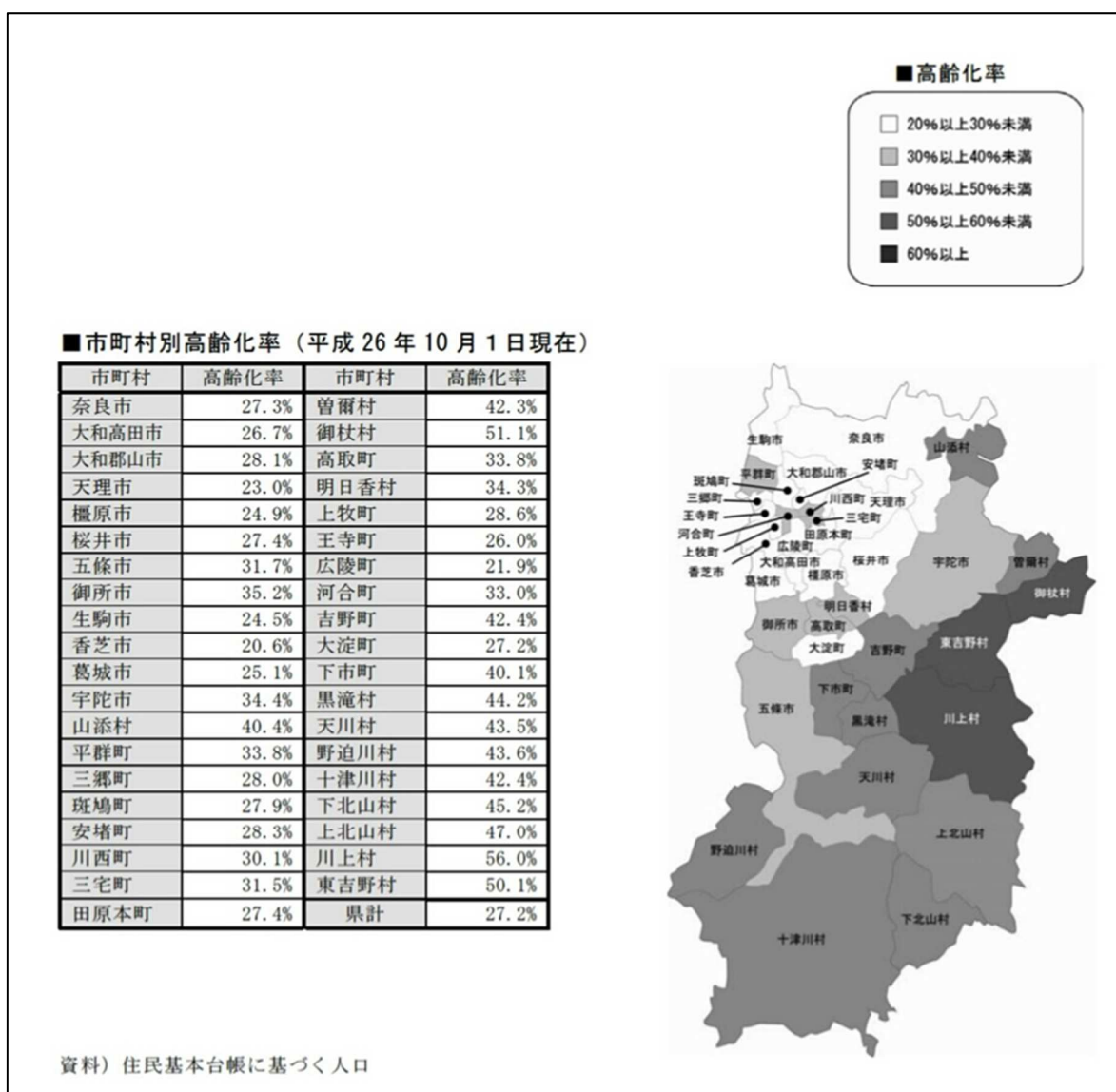


図 4 奈良県の市町村別高齢化率

出典: 奈良県公式ホームページ

表 2 奈良県の高齢者人口の推移

■ 高齢者人口の推移					
	平成12年	平成17年	平成22年	平成25年	平成26年
総人口 (人)	1,442,795	1,421,310	1,400,728	1,404,296	1,396,879
65歳以上 (人)	239,432	283,528	333,746	365,769	379,929
65～74歳 (人)	141,652	157,279	179,689	195,552	205,614
構成比 (%)	59.2%	55.5%	53.8%	53.5%	54.1%
75歳以上 (人)	97,780	126,249	154,057	170,217	174,315
構成比 (%)	40.8%	44.5%	46.2%	46.5%	45.9%
奈良県高齢化率	16.6%	19.9%	23.8%	26.0%	27.2%
全国高齢化率	17.3%	20.1%	22.8%	25.1%	26.0%

資料) 奈良県…平成12年、平成17年、平成22年は国勢調査、平成25年、平成26年は住民基本台帳に基づく人口
全 国…平成12年、平成17年、平成22年は国勢調査、平成25年、平成26年は推計人口 (総務省統計局)

出典: 奈良県公式ホームページ

宿泊観光客を増やす取り組みとして画期的な事例をもう一つ紹介する。奈良交通とのタイアップ企画である。一定期間内と定めてはいるが奈良交通バスを利用して十津川村に行き、村内の宿泊施設に泊まると往復のバス代が無料になるというものである。このキャンペーンを利用するにあたっては 7 日前までに予約の申し込みを行わなければならないといけませんが比較的容易な手続きである。この企画は始まってからなびきツアー一程年月が立っているわけではないが好評を収めており、メディアで紹介されていたことから十津川村の宿泊観光客増に大いに貢献しているのではないかと考える。

5. おわりに

奈良の観光には宿泊観光客を獲得していくことが重要であると述べてきた。今や行政だけでなく民間でもこの内容を共通の目標として日夜観光施策練っている。奈良燈火会や明日香光の回廊といった夜に奈良に滞在しなくては楽しむことが出来ないイベントができてきたのも、一部に宿泊観光客数を伸ばすために企画されている側面があるのであろう。また、奈良県は古来から観光資源と成り得るものが比較的豊かであるがそれらを必ずしもうまく活用できているとは限らない。特に南部地域は北部地域に比べ観光地としての PR 活動があまり盛んとは言えない。取り巻く背景はそれぞれ違いがあるものの南部地域、北部地域のどちらにも奈良県としての良さがある。奈良の更なる魅力高めるためにも両者につながりを持たせていくことも重要となるであろう。そこから奈良の観光に関しての研究を深めていく過程で、南部と北部をつなぐ宿泊プランを提供してみてもどうかと考えた。この提案をしていくためには奈良県についてより深く理解を深めていくことが必要となるであろう。したがって現段階で本稿への記載は差し控えることとする。しかし、この提案が現実のものとなった場合、奈良県全体が一体的に奈良の観光について見つめなおすこときっかけとなるのではないだろうか。

参考文献

- 観光庁 (2015) 「宿泊旅行統計調査 平成 27 年 1 月～12 月分」 [http://www.mlit.go.jp/commo
n/001122257.xls](http://www.mlit.go.jp/commo
n/001122257.xls)
- 小松原尚 (2007) 『地域からみる観光学』, 大学教育出版
- 多方一成 (2000) 『グリーン・ツーリズムの文化経済学』, 芙蓉書房出版
- 十津川鼓動の会 (2016) 「ツアー情報」 <http://www5.kcn.ne.jp/~saka1951/tour/index.html> (最
終閲覧日:2016 年 6 月)
- 十津川村観光協会 (2016) 「アクセスマップ」 <http://totsukawa.info/> (最終閲覧日:2016 年 6 月)
- 十津川村ポータルサイト (2016) 「村の人口」 [http://www.vill.totsukawa.lg.jp/www/toppage/000
000000000/APM03000.html](http://www.vill.totsukawa.lg.jp/www/toppage/000
000000000/APM03000.html) (最終閲覧日 2016 年 6 月)
- 奈良県 (2014) 「平成 26 年奈良県観光動態調査報告書」 [http://www.pref.nara.jp/secure/1557
7/%e3%80%90%e7%a2%ba%e5%ae%9a%e7%89%88%e3%80%91%20%e8%a6%b3%e5%85%89%e5%ae%a
2%e5%8b%95%e6%85%8b%e8%aa%bf%e6%9f%bb%e5%a0%b1%e5%91%8a%e6%9b%b8.pdf](http://www.pref.nara.jp/secure/1557
7/%e3%80%90%e7%a2%ba%e5%ae%9a%e7%89%88%e3%80%91%20%e8%a6%b3%e5%85%89%e5%ae%a
2%e5%8b%95%e6%85%8b%e8%aa%bf%e6%9f%bb%e5%a0%b1%e5%91%8a%e6%9b%b8.pdf)
- 奈良県 (2016) 「大宮通り新ホテル・交流拠点事業」 [https://www.google.co.jp/url?sa=t&rct=j&q
=&esrc=s&source=web&cd=1&cad=rja&uact=8&ved=0ahUKEwi6pfij1JLNAhVkG6YKHb1oB
V0QFggbMAA&url=https%3A%2F%2Fwww.mori-trust.co.jp%2Fpressrelease%2F2016%2F201
60303.pdf&usg=AFQjCNEO5fF8RwufX7rxEz3CxyTIMMUVlg](https://www.google.co.jp/url?sa=t&rct=j&q
=&esrc=s&source=web&cd=1&cad=rja&uact=8&ved=0ahUKEwi6pfij1JLNAhVkG6YKHb1oB
V0QFggbMAA&url=https%3A%2F%2Fwww.mori-trust.co.jp%2Fpressrelease%2F2016%2F201
60303.pdf&usg=AFQjCNEO5fF8RwufX7rxEz3CxyTIMMUVlg)
- 奈良県 (2016) 「奈良県高齢者福祉計画及び第 6 期奈良県介護保険事業支援計画 県内高齢者
と介護保険サービスの現状」 <http://www.pref.nara.jp/14366.htm>
- 奈良県 (n.d.) 「宿泊施設の立地促進」 <http://www.pref.nara.jp/secure/2642/kanwagaiyou2.pdf>
- 奈良まちおこし結び絵 (2016) 「これまでの結び絵 第 3 回 9 月のイベントなびきツアー」 [http://m
usubie.es.land.to/03/e013.html](http://m
usubie.es.land.to/03/e013.html) (最終閲覧日 2016 年 6 月)
- 民宿松乃家 (2016) 「日本一長い路線バスの旅で十津川温泉に」 [http://www.yado-matsunoya.
com/%E6%97%A5%E6%9C%AC%E4%B8%80%E9%95%B7%E3%81%84%E8%B7%AF%E7%B7%9A%E
3%83%90%E3%82%B9%E3%81%AE%E6%97%85%E3%81%A7%E5%8D%81%E6%B4%A5%E5%B7%9D%
E6%B8%A9%E6%B3%89%E3%81%B8/](http://www.yado-matsunoya.
com/%E6%97%A5%E6%9C%AC%E4%B8%80%E9%95%B7%E3%81%84%E8%B7%AF%E7%B7%9A%E
3%83%90%E3%82%B9%E3%81%AE%E6%97%85%E3%81%A7%E5%8D%81%E6%B4%A5%E5%B7%9D%
E6%B8%A9%E6%B3%89%E3%81%B8/) (最終閲覧日:2016 年 6 月)